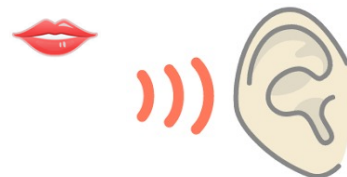


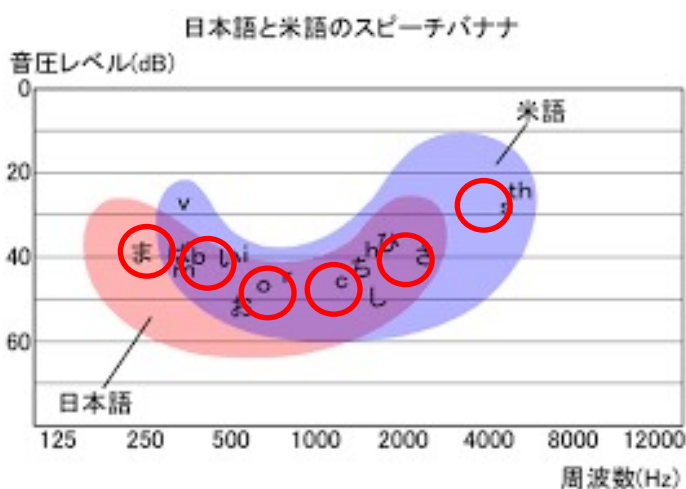
日本版リング6



リング6音とは、人間が発することのできる低い音から高い音までの様々な音（周波数）を代表する6つの音です。

6つの音は/m/、/u/、/i/、/a/、/sh/、/s/です。



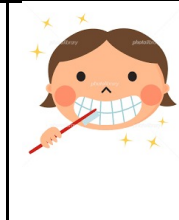



補聴器や人工内耳を装用しているお子さんの聞こえを、このリング6でチェックして、聞こえの学習に必要な「言語音」が聞こえているかを確認するのに役立ちます。



これらの音をランダムに出してお子さんが気づく（検知）、音を聞いて声を出せる（同定）、聞こえている音の意味が分かる（理解）かを、聞こえの発達とともに確認することができます。

日本語では、以下の内容で聞かせるといいでしょう。

- ・「んーおいしい」（口を閉じて声を出した時のハミング音）の /m/
- ・消防車などのサイレンの音「うーうー」の /u/
- ・「いーいお顔」、歯磨きの時の「いー」の /i/
- ・「あっち」、「あった」、「あーあ」の /a/
- ・静かに「しー」の /sh/
- ・すーいすーい、すーっと滑るの /s/

m(む)	a(あ)	i(い)	u(う)	sh(し)	s(す)
					

どのようにやるの？

ステップ1 検知（音に気づく）

最初は、静かな場所で行ってください。

お子さんの補聴器・人工内耳装用側の横（できたら機器のマイクの位置から20cm）に座り、お子さんから見えない、わからないように、6つの音を一つづつ、普通の話声の大きさで出してください。

お子さんが、振り向く、音を探す、微笑む、静かになるなど、音に対して気づいたら、「聞こえたね」「上手に聴けたね」などほめてあげましょう。

もし、気づきがないようだったら、少し音に抑揚をつけたり伸ばして出してみよう。2回繰り返して気づかないときは別の音にしましょう。

6つの音は毎日同じ順番で声を出すのではなく、ランダムに出しましょう。この時期は音に気づくことが大切です。どんな音に気づいたか、気づかなかつたかを毎日記録しましょう。

ステップ2 同定（聞こえた音がいつもの知っている音だとわかる）

いくつかの音に気づくようになってきたら、ママとお子さんの距離を1M、2M、3Mと長くしてみよう。お子さんはいくつかの音の違いが分かってきています。絵カードなどを使って聞いた音で遊みましょう。

「ん」で気づいたら！ → 「んーおいしい」って、表情や身振りやカードで遊みましょう。お子さんは少しずつ音の意味を理解していきます。

引き続き記録をしましょう。

ステップ3 理解（音の意味が分かる）

聞こえた音を、お子さんが模倣して言うようになってきます。また、目の前に置かれた6つカードから聞こえた音のカードを選べるようになってきます。もし、お子さんが聴いた音と違う音を言った場合や、1回目ではわからず、2回目で理解できたなどのコメントも書き留めておくとよいでしょう。

◇チェックの仕方◇

一度に全部ができるようになりません。気づいた日、関連付けができた日、お子さんが真似をした日などを書き留めておくといいでしょう。

(記入例)

	m(む)	a(あ)	i(い)	u(う)	sh(し)	s(す)
3月1日	—	気づく	キヨロキヨロ	笑う	—	—
3月2日	—	気づく	—	気づく		
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
6月17日	うー	あー	気づく	う	いー	—

記 録

	m(む)	a(あ)	i(い)	u(う)	sh(し)	s(す)
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						
月 日						

*なくなったらコピーしましょう